

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームひかりの園		
所在地	山口県美祢市於福町3267-1		
電話番号	0837-56-5555	事業所番号	3571300148
法人名	社会福祉法人 同朋福祉会		

訪問調査日	平成 20 年 3 月 28 日	評価確定日	平成 20 年 7 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人 非常勤 0 人 (常勤換算 7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	250 円
その他の費用	月額 26,000 円			
	内訳 光熱水費16,000円、日用品・営繕費10,000円			

(4) 利用者の概要 (3月28日現在)

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	1	要介護 4	1
	要介護 2	3	要介護 5	0
	要介護 3	4	要支援 2	0
年齢	平均 86,7 歳	最低 80 歳	最高 93 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 とも園クリニック 美祢市立病院 歯科 津村歯科 コスモ歯科
-------------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者が年々重度化していく中にありながら、管理者を中心に職員が一丸となってその人らしい暮らしを目指している様子が伺われました。特に、生け花や、貼り絵、美容の日、法話の会など利用者が活躍できる場面をたくさん創出し、心身ともに張り合いのある暮らしができるよう工夫されていました。事故やヒヤリはつとに関する報告や記録が良く整備され、職員会議等でその改善策を検討するなど、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組み、さらに、事故発生時や緊急時の対応も勉強会や訓練を重ね、安心・安全体制が整っています。

(特徴的な取組等)

ホーム全体での健康管理への意識が高く、特に感染症への対応に積極的に取り組まれています。法人で3ヶ月に1回開催される感染予防審議会に参加し対策を検討する他、手洗いやうがいの励行、手摺りの消毒、ペーパータオルの使用、インフルエンザの予防接種を全員受けるなど予防に努めています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の外部評価結果を基に、職員会議で対応策が検討されています。重要事項説明書を新しく作成し、苦情相談窓口の外部機関、第三者委員が新たに明示されています。利用者の家族に改めて配布し周知を図っています。

(今回の自己評価の取組状況)

職員会議において今回の自己評価の意義について説明をし、職員全員で項目ごとに意見交換・検討し、管理者が意見を集約し、まとめたものを渡し、再度確認して作成されました。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は、2ヶ月に1回、行政職員(福祉事務所)、民生委員(3名)、地域代表者、利用者とその家族、施設長、管理者の参加で開催しています。利用者やサービスの状況、行事報告のほか、感染予防等の情報の提供、自己評価の内容や評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者から意見、助言等をいただきながら、サービスの向上に努めています。

(家族との連携状況)

毎月発行しているホーム便りに利用者の生活・医療状況、行事の報告と予定を載せ、出納簿のコピー、買物レシートと一緒に送付しています。職員の異動や利用者の具合の悪いときには電話連絡をし、面会時にも利用者の様子等を伝えています。年賀状や暑中見舞いなども送っています。

(地域との連携状況)

地域住民の一員として交流する機会が多く、敬老会や小・中学校・町民の運動会、十三夜まつり、公民館まつり等に参加しています。中学生の体験学習やボランティアによる訪問、友人や知人の来訪も多く、近隣の住民からの野菜や花の差し入れなどもあります。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	運営者、施設長、職員全員で理念の見直しを重ね、「明るく、楽しく、のんびりと、その人らしくを大切にすること」「地域の中でなじみの暮らしが継続できるよう支援すること」等を定めた事業所独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念はパンフレットにも掲載し、管理者と職員は、朝礼時やケアの見直しの機会などを捉えて共有を図り、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域住民の一員として交流する機会が多く、敬老会や小・中学校・町民の運動会、十三夜まつり、公民館まつり等に参加している。友人や知人の来訪も多く、近隣の住民からの野菜や花の差し入れなどもある。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングで外部評価の意義を職員に説明し理解した上で、自己評価を職員全員で実施している。また、評価の過程を通じて日々のケアの振り返りや見直しなどサービスの改善に向けて取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では利用者の状況、サービス内容や行事、外部評価の内容や取組状況の説明・報告を行い、参加者からの意見、助言等を活かし、サービスの向上に努めている。参加者メンバーの拡大が望まれる。	・運営推進会議の参加メンバーの拡大(地区の関係機関、団体など)
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当課の職員とは日頃から交流の機会も多く、地域包括支援センターを含めた関係づくりにも積極的である。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行しているホーム便りに利用者の生活・医療状況、行事の報告と予定を載せ、出納簿のコピー、買物レシートと一緒に送付している。職員の異動や利用者の具合の悪いときには電話連絡をし、面会時にも利用者の様子等を伝えている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の来訪時に意見や要望を聞いている他、入り口に苦情箱を設置するなど、気軽に意見が出せるように工夫している。苦情相談の窓口、担当者、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きも明確にしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤7名の職員体制で、利用者一人ひとりの状態やペース、行事に合わせた柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。病欠等の緊急時には、公休出勤や併設施設の職員で対応し、職員には前もって希望休を聞き、無理のないシフトを工夫している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は利用者や職員がなじみの関係が続けられるよう職員の異動や離職は最小限に抑える努力をしており、新しい職員の採用時には日勤や夜勤などにおいて重複対応しながら、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、勤務経験や段階に応じて受けることができるよう配慮し、年2回の法人での研修への参加やその報告会、ホームでの勉強会など、職員が学ぶ機会を確保している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県宅老所・グループホーム連絡会や宇部・小野田ブロック研修会などに加入しているが、年に1回程度の参加で、職員同士の交流や積極的な情報交換までにはいたっていない。	・県内や地域の同業者との交流を通じたサービスの向上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前には、管理者、ケアマネジャーが自宅を訪問し住み替えによる不穏を最小限にするための話し合いを行っている。また、ホームの見学では、利用者、家族と共にゲームやおやつと一緒に食べてもらうなど、普段の生活の様子を直接感じてもらっている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者は人生の先輩であるという考えを共有しており、利用者から戦争体験の話や梅干の漬け方、お茶の作法、刺し子、昔からのしきたりなど教えてもらうことも多く、お互いに協力し合いながら穏やかな生活ができるよう心がけている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式を取り入れ、家族からの情報や生活歴の把握に努めると共に、日頃の関わりの中で、利用者の行動、表情、会話の中から希望や意向を把握するよう心がけている。特に、利用者の思いがけない言葉などは、毎日の記録に残すようにしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者には日頃の関わりの中での思いを聞き、家族には訪問時などに意見を尋ねたり、それぞれの意見を反映しながら職員全体での意見交換やモニタリング、カンファレンスを通して介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>6ヶ月に1回介護計画期間での見直しを行うとともに、利用者に変化が生じた場合は、利用者や家族の要望を取り入れ、現状に即した検討、見直しを行い、新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>かかりつけ医への通院介助、選挙時の投票への付き添い、ふるさと訪問の支援など、出来るだけ利用者や家族の要望に沿えるような支援を心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望を大切にし、協力医療機関による受診のほか、それぞれの病歴に関わる他の医療機関においても継続受診や訪問診療をお願いしている。その場合は情報提供も適切に行い、利用者が安心できる体制を整えている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に、重度化した場合の対応について説明すると共に、状態の変化があることに家族の気持ちや利用者の思いに注意を払い、利用者・家族・関係者と相談しながら次の支援につなげていくことへの方針を全員で共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	年2回の勉強会やミーティングの中で、特にプライバシーを損ねるような言葉や態度には気をつけるよう話し合っており、日々の関わりの中でも管理者が点検を行っている。個人情報の取り扱いにも細心の注意を払い、面会カードも、他の人に見られないように気をつけている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「のんびりとその人らしくを大切に」をモットーに、職員の都合を押し付けることのないよう気をつけている。一日の流れはあっても、起床時間や食事時間など、声かけはしても本人のペースや主体性を尊重しながら過ごすことが出来るよう心がけている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食は法人内の配食メニューだが、朝食・夕食は利用者の希望や畑で取れた野菜等を取り入れるなど出来るだけ工夫をしている。食事の準備や盛り付け、後片付けなどは職員と一緒にを行い、同じテーブルで会話をしながら食事を楽しんでいる。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日入れるようにしてあり、朝風呂も可能である。普段の入浴時間は14時から16時までの間で、一人ひとりゆっくりと入浴できるように支援がされている。利用者の状態によりシャワー浴や清拭などへの対応やゆず湯や入浴剤を使った入浴を楽しむ工夫もある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の暮らしの中で、一人ひとりの出来る力を引き出し、日々の生活の張り合いとなるような場面作りをたくさん行っている。生け花、貼り絵、塗り絵、パッチワーク、書道、音楽療法、3B体操、法話の会、美容の日(お化粧品を楽しむ)などバリエーションに富んだ活力ある生活の支援を行っている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のいい日には出来るだけ散歩に出かけており、利用者一人ひとりの希望や状況に合わせて、ドライブ(季節の花見、みかん狩り、道の駅の足湯など)や外食、買い物など外出を楽しめる支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	権利擁護、虐待防止、身体拘束に関する勉強会を実施する他、ミーティング等でも職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に、スピーチロックについては、管理者を中心に職員全体で日頃から気をつけている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、できるだけ鍵をかけないように心がけており、鍵をかけることについての弊害も職員は十分に理解している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書がきちんと整備され、職員会議では、その改善策を検討するなど、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。職員は行方不明、転倒など事故防止のマニュアルを作成し知識を学んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急マニュアル、夜間緊急時マニュアルを作成し、事故発生時に備えた勉強会を開いている。管理者は救急救命講習にも、参加し、報告も行っている。夜間は、緊急対応として法人の看護婦との連携を取っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災マニュアルを作成し、年に2回は消防署の協力で夜間想定を含めた避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方、ビデオでの防災学習などの研修を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者一人ひとりの服薬内容が書かれたものはファイル化され、変更がある場合は伝達ノートに記入し、職員はきちんと確認している。服薬については、ホームの准看護師が薬を仕分けし、職員が名前を確認し、手渡しをして、飲み終えるまで確認をしている。必要な情報は医師・看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	往診による歯科検診を実施している。食後の口腔ケア、義歯の洗浄、歯ブラシの清掃・管理などについて、一人ひとりの口腔状態に応じて支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量や水分量などは記録され、利用者一人ひとりに状態にあった食事(おかゆ、パンがゆなど)が用意されている。法人の栄養士が献立を作成し、カロリーや栄養バランスの把握もしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症や食中毒の予防マニュアルがあり、職員会議で定期的に確認するほか、法人で3ヶ月に1回開催される感染予防審議会に参加対策を検討している。手洗いやうがいの励行、手摺りの消毒、ペーパータオルの使用、インフルエンザの予防接種を全員受けるなど予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	天井が高く明るい共用空間は、オープンキッチン・食堂・事務室があるホールを軸に扇形に利用者の居室が配置され、職員は調理をしながら、また電話の対応をしながら利用者を見守ることのできるようになっている。みんなの居場所となっているソファや仏壇のある畳の間も用意され、利用者の作った紙粘土細工や雛飾りなど季節感あふれる生活空間となっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みについては、入居前にご家族とよく相談し、実際にも使い慣れたベッド、小たんす、机、テレビ、コタツ、冷蔵庫、本などが持ち込まれており、利用者が安心感を持って過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ひかりの園
所在地	山口県美祢市於福町下3267-1
電話番号	0837-56-5555
開設年月日	平成13年12月22日

【実施ユニットの概要】 (2月10日現在)

ユニットの名称	ひかりの園			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 2名	女性 7名	
	要介護1	1	要介護4	1
	要介護2	3	要介護5	
	要介護3	4	要支援2	
年齢構成	平均 86.7歳	最低 80歳	最高 93歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	平成20年1月18日自己評価見直し。平成20年2月8日自己評価検討会実施。
評価確定日	平成20年2月15日

【サービスの特徴】

畑には季節の野菜を植え収穫の時期が来たら、皆で収穫の楽しさを味わい食卓にも収穫した食材の料理を出し、収穫の様子など会話が弾む中その味覚を楽しんでいる。四季折々の自然事象を感じていただくために、花見や梅干し作り、公園でのお弁当、ケアハウス利用者や、障害者等との交換会の七夕、ミニ運動会、みかん狩り、餅つき、雛祭りなどを楽しんでいる。地域の小学校・中学校の運動会出場観戦、自施設で敬老祝賀会を行うと共に地区敬老祝賀会にも参加している。趣味や手芸など職員と共に楽しまれ、郵便局で作品展をしている。また併設のケアハウスでの行事に参加し交流を図っている。当法人運営の診療所もあり、医療面の対応もすぐ取れるようになっている。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>運営者、施設長と職員全員で理念の見直しを重ね、明るく楽しくのんびりと、また職員は優しい心・ふれあう心・温かい心を持って利用者に接し、地域と関わりながらその人がその人らしく生き甲斐を持って過ごせるよう支援することを理念とした。</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>朝礼時は理念を盛り込んだ歌「同朋の園」を唱和し、楽しみながら常に理念の確認をしている。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>利用者が見やすい壁面に柱となる理念の掲示をしている。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>個別援助計画、行事計画、サービス計画は各人が個人情報守秘をなしスタッフ間で共有し毎年見直し、冊子で法人全体に示している。園だより原稿はスタッフ全員が編集にあたり、事業所単位で責任を以て仕上げ地域関係機関へ周知している。</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>ご家族には面会時など折に触れ伝えている。また郵便局にて利用者の作品展示会をしてもらおう等地域に向けてアピールをしている。地域行事に参加した際も地域の方に理解して頂けるよう伝えている。</p>
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>散歩や外出時など積極的に声をかけ関係作りに努めている。野菜や花などの話をすると、野菜や花をいただく事もある。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>地域での行事、夏祭りや敬老会、小・中学校の運動会などできる限り出かけて行き、地域の皆さんとの交流に努めている。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>地域の行事に参加した時などグループホームについて話したり、認知症の家族を抱えておられるご家族の相談にのったりしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で行い、外部評価を実施する事で、できていない部分に気づきサービスの質の向上に努めている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	市や地域の方、ご家族に施設を知って頂き、意見をサービスの質の向上につなげている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者とは連携が取れており、何でも相談できる関係ができています。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現在、権利擁護に関する制度を必要とされる利用者がいない。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	朝礼時や職員会議などでどんなことが虐待になり、虐待を見逃していないかを問い、高齢者虐待に関する理解を深め遵守に向けた取り組みをしている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事業所のケアに関する取り組みや起こりうるリスク、退居時の対応など不安や疑問な点を聞きながら説明している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の様子より察知するよう努力し、その事についてミーティングを行い改善につなげている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には様子を伝え、月1回のご家族宛の便りにも、ご本人の様子を記入して知らせている。発熱時などいつもと違う状況が発生したときは電話で連絡している。金銭管理については、毎月出納簿のコピーをレシートと共に送っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求があった場合は応じている。毎月園だより発信で法人全体の情報提示。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	ご家族に何でも言ってもらえるような話しやすい雰囲気作りに努めている。又いただいたご意見は速やかに話し合い改善している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	給食会議、職員会議、高齢福祉サービス会議、感染会議等でスタッフ全員の意見の吸収や提案事項、物品購入、ヒヤリはっとは直ちに情報提示として指示を促している。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	GHでの状況変化の対応でGH内部対応だけでなく法人や関連施設との部署においても対応できるよう個人情報守秘をしながら対応できるように全職員が周知に努めている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員異動は余裕を以て本人通知し利用者への配慮努力をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務経験、年数はチェックしそれに応じた資格取得を勧めている。職員間の勤務状況も協力体制をとっている。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	食事提供やレクリエーション、手芸など個人が持つ得意性を利用者と共に協働している。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内外の研修会に参加、交流する事で情報交換をしサービスの質向上につなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	どういうふうに暮らしたいかご本人と話し、またご家族の意向もお聞きしながら作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族やご本人の要望を採り入れ見直している。状態や状況に変化が生じた場合は検討、見直しをするようにしている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の状態・変化は個々のケースダイアリーに記録し、食事・水分・排泄等についても日誌メモに記録し、状態把握につなげている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望やその時の状況に応じて対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して暮らせるよう警察との情報交換、民生委員や消防署の協力やアドバイスももらっている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティアも来ていただくように声をかけている。中学生の体験学習も受け入れている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他事業所の介護支援専門員等との情報交換をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターとの関係作りに務めたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		これまでの継続性が損なわれないように、これまでの暮らし方や支援の内容、気を付けて欲しい事などの情報を提供している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>勉強会やミーティングで職員の意識向上を図り、利用者の尊厳を損ねない対応をしている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に合わせて声かけやわかりやすい説明を心掛け、本人が自分で決められるよう支援している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>手伝い等本人のできることを見極め、できない事で自信をなくす事のないよう配慮し、支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な流れはあるが、それぞれがその日の気分で過ごされている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自分で必要に応じて化粧をする人もあるし、美容の日を決め化粧を楽しんでもらっている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の希望を献立に採り入れている。準備や盛りつけも利用者と職員と一緒にし、同じテーブルで楽しく食事を取っている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>アルコール等希望されれば出せるようにしている。又職員からもどうですかと声をかけるようにし、希望を言いやすいようにしている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェックをすると共に、本人の様子を観てトイレ誘導をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者に聞き、入ってもらっている。	
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	本人の体調を見ながらできるだけ日中の活動を促し、生活のリズムを整えて頂けるよう支援している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意な分野で力を発揮してもらえよう、できそうなレク、趣味、手伝いをしてもらっている。	
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額を持たれている方もある。又自己管理していない人も買い物に行った時は事前にお金を渡し、支払いの場面では自分で支払えるよう支援している。	
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や本人の体調、希望を採り入れながらできるだけ散歩や外出ができるよう支援している。	
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	昔住んでいた家の回りが見たいなど、希望が有った時は外出の際は通るようなコースを決めたりして、工夫している。	
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年、年賀状や暑中見舞いを出せるように支援している。また電話を掛けたり、手紙を出したりできるよう声をかけ支援している。	
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、知人、友人がいつでも気軽に訪問でき楽しい時間が過ごせるよう配慮している。	
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊される方もあり、適切に対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	参加しやすい行事を取り入れ家族も参加されている。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	勉強会やミーティングで自分自身を振り返り、気づかないうちに身体拘束をしていないか省みている。	
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、鍵は掛けておらず、職員全員が鍵を掛けないケアの重要性を理解している。	
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は日中利用者と同じ空間にあり、さりげなく全員の状況を把握している。夜間は2時間毎の巡回を行い、利用者の様子を確認し何事にもすぐに対応できる場所にいる。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況変化に応じた対応をしている。	
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告や、ヒヤリ・はつとを記録し事故防止、再発防止に向けて検討会をしている。	
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会をし確認している。	
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告や、ヒヤリ・はつと報告をまとめ、検討会をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	プランターに花を植えたりし、温かい雰囲気になるよう工夫している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	調理の音や香り、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽を楽しんでもらっている。また季節を感じてもらうために、ゆず湯や鍋料理、ひな人形や五月人形を飾る等工夫している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子やソファを置き、気の合った利用者同士でくつろげるように工夫している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談しながら、使い慣れた物、馴染みのある物を持ち込んでもらい、落ち着ける場所作りの工夫をしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気に務め温度計を見ながら湿度・温度に気を配っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者の状態に合わせて手摺りや、浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているか見直し、安全確保と自立への配慮をしている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	状態が変わり、今までできていたことができなくなったりした場合、職員全員で話し合い、どうしたら本人が自信を持って生活できるかを探っている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花を植えたり、プランターや畑で野菜を育てるなど工夫している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない